

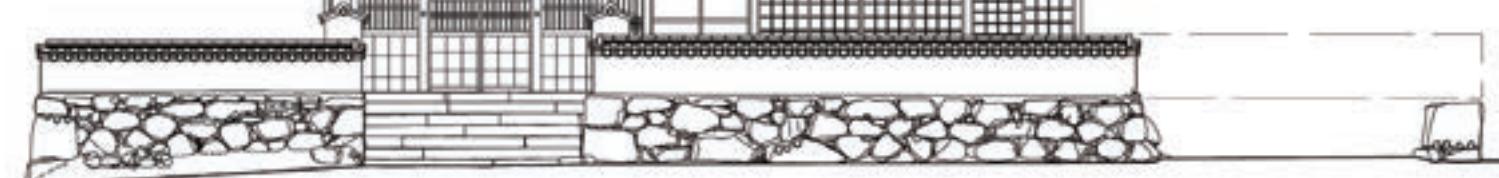
きんこうてい

# 日出町有形文化財 日出藩御茶屋襟江亭主屋 解体保存工事見学会

江戸時代前期の  
木造建築を  
守り伝える

その最前線を  
見る、知る、学ぶ

文化財建造物を  
守り伝える



日 時

令和7年12月13日(土)

10:30 ~ 12:00

少雨決行  
荒天中止

会 場

襟江亭 ★申込不要、見学無料

大分県速見郡日出町大字大神字深江 5422 番地

P 大神漁港駐車場をご利用ください (駐車場より会場まで徒歩約2分)

内 容

- I 襟江亭の歴史、調査、評価について (概要)
- II 襟江亭主屋の工事 (解体保存) について (概要)
- III 工事現場の公開見学

★建築・文化財のスタッフが見どころを解説します

- ↳ 襟江亭 (文化財建造物) の建築構造・部材の特徴、発見、謎
- ↳ 襟江亭 (文化財建造物) の解体ならではの方法や技術

## 日出藩御茶屋襟江亭

襟江亭は寛文7年(1667)年、日出藩3代藩主木下俊長の命により深江(港)に造営された日出藩の御茶屋です。日出藩をはじめ、別府湾を出帆する九州諸藩の大名が深江港、襟江亭を利用しました。現存する極めて希少な大名参勤交代の御茶屋、九州最古期の武家建築として、後世への保存継承が求められる貴重な文化財です(主屋建物は町指定有形文化財)。



主 催 日出町教育委員会

問合先

日出町教育委員会社会教育課(文化財係)

TEL0977-73-3222/FAX0977-72-8680

〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2

## 次 第

- 1 開 会 (10:30 ~)
- 2 説 明
  - (1) 襟江亭の歴史・調査・評価(概要)について
  - (2) 襟江亭主屋解体保存工事(概要)について
- 3 現場公開 (10:50 ~)
  - (1) 解体現場見学
  - (2) 解体部材展示見学
- 4 閉 会 (~ 12:00) ※現場公開以降、自由解散

## 事業の概要

事業名 日出町有形文化財「日出藩御茶屋襟江亭主屋」解体保存工事  
対象文化財 日出町有形文化財 日出藩御茶屋襟江亭主屋(令和6年12月20日指定)  
所有者 日出町  
事業組織 [事業主体] 日出町教育委員会(社会教育課)  
協力 日出町(都市建設課)  
[設計・監理] Y.O設計  
[施工] 有限会社吉弘建設  
事業期間 令和7年9月~令和8年3月  
事業概要 襟江亭主屋の調査・解体  
[工事] 主屋建物(礎石を除く)の解体(部材は格納保存)  
[調査] 解体に伴う建築構造・意匠・部材その他の調査記録

## 事業の経過(概要)

平成28年度 日出藩御茶屋襟江亭保存調査委員会 設立・調査(~令和3年度)  
委員長 伊東龍一(熊本大学教授) / 建築 注)名簿は平成29年3月時点  
委員 加藤悠希(九州大学準教授) / 建築  
" 中尾七重(山形大学研究員) / 建築・科学分析  
" 久保智康(京都国立博物館名誉館員) / 金工  
" 高瀬哲郎(石垣技術研究機構代表) / 石垣  
" 林千寿(八代市立博物館) / 史料  
" 三ヶ尻勝(日出町文化財保護委員) / 建築  
事務局 日出町教育委員会文化振興室(現社会教育課文化財係)  
令和3年度 日出町文化財報告書第8集「日出藩御茶屋襟江亭調査報告書」刊行  
令和6年度 襟江亭主屋文化財指定(町有形文化財)・寄付(日出町所有)  
襟江亭主屋解体保存設計業務委託(受注:Y.O設計)  
令和7年度 襟江亭主屋解体保存工事

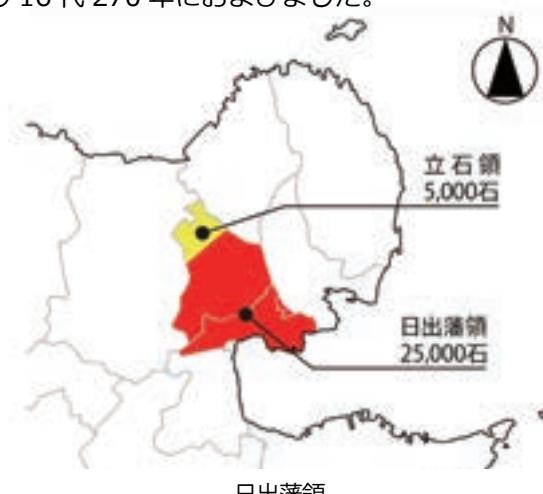
# 日出藩木下家

## I-1 木下家と日出藩

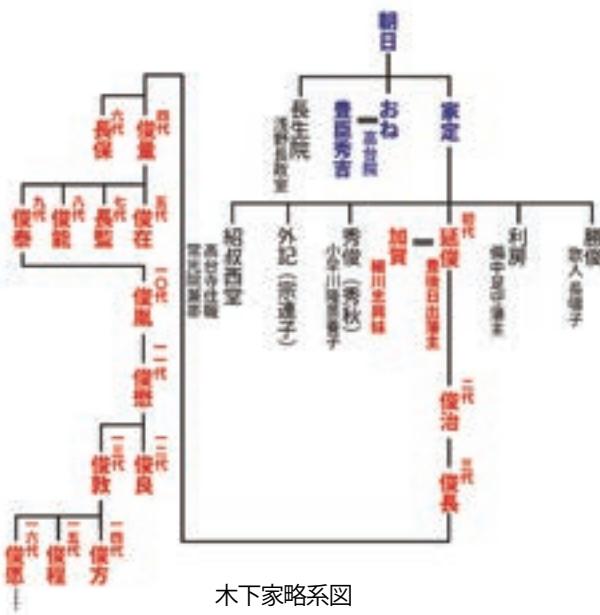
藩祖延俊は木下家定の三男に生まれ、豊臣秀吉正室の寧（高台院）こうだいいんの甥にあたります。平姓杉原氏を改め「豊臣姓木下氏」を名乗り、父家定とともに秀吉に仕えました。

関ヶ原の合戦後の慶長6（1601）年、延俊は日出3万石の藩主として入封し、その後まもなく日出城を築城しました。

延俊の逝去後、2代藩主俊治の弟延由に5千石  
が分封され（立石領）、その所領は2万5千石と  
なりました。木下家による統治は、江戸時代を通じ16代270年におよびました。



日出藩領



## I - 2 木下俊長

3代目出藩主木下俊長（1648～1716）は、2代藩主俊治の第三子に生まれ、寛文元（1661）年に家督を継ぎました。

俊長は、幕府の武断主義から文治主義への転換を背景に、文武の奨励や寺社への奉納寄進、灌漑の整備（ため池築造）、殖産の振興（七島蘭栽培）など、藩の内治に意を尽しました。また、人見竹洞（幕府儒官）や狩野常信（幕府御用絵師）に師事・親交したことでも知られています。



木下俊長肖像



横津御廟（現横津神社）



### 横津御廟（日出藩主3代木下俊長墓）

## II 日出藩御茶屋 襟江亭

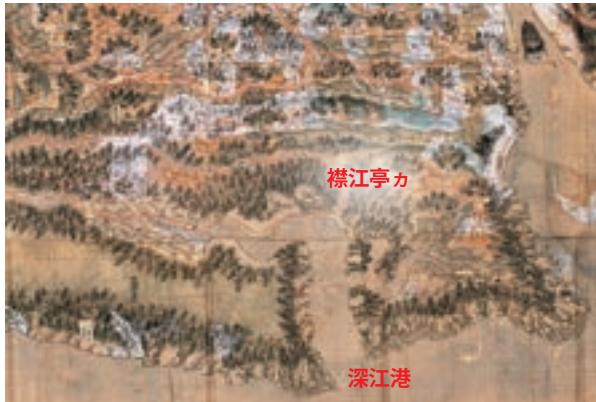
### II-1 御茶屋

「御茶屋」とは、戦国時代末から江戸時代にかけて、將軍や大名、また、賓客などが宿泊・休憩に利用した施設です。主に街道筋や交通の要衝、寺社などに設けられました。

日出藩領内にも、江戸時代を通じていくつかの御茶屋が営まれましたが、唯一、深江（大字大神字港）<sup>ふかえ おおが</sup><sup>きんこううい</sup>の「襟江亭」が今日に現存しています。

### II-2 深江港

深江港は、室町時代初期の頃に大神朝直が初めて大神に住み深江城（別名一戸城）を築くことにより栄えたとされています。幅約 200m の湾口に 800m を超える奥行きを持つ湾であり、古くから豊後一の良港といわれました。江戸時代には東西の運輸交通の要衝とされ、日々、大小 300 隻内外の船が入港していたとされています。昭和 20 年には、旧日本海軍が人間魚雷「回天」の訓練基地を設けました。



『日出藩領内絵図』にみる深江港・襟江亭



深江港と襟江亭の眺望

### II-3 襟江亭

日出藩木下家の家臣二宮兼善が寛政年間に編纂した地誌『南大神村図跡考』によると、襟江亭は寛文 7（1667）年、3 代日出藩主木下俊長の命により深江港（現大神漁港）の北岸に造営されました。当時、深江には初代藩主木下延俊が御茶屋を営んでいた模様で（その所在地は「新地の北山の下」、襟江亭の所在地より南東数百メートル付近と推定）、これを現在地に「地引－移築か－」して襟江亭が整備されたと伝えられています。

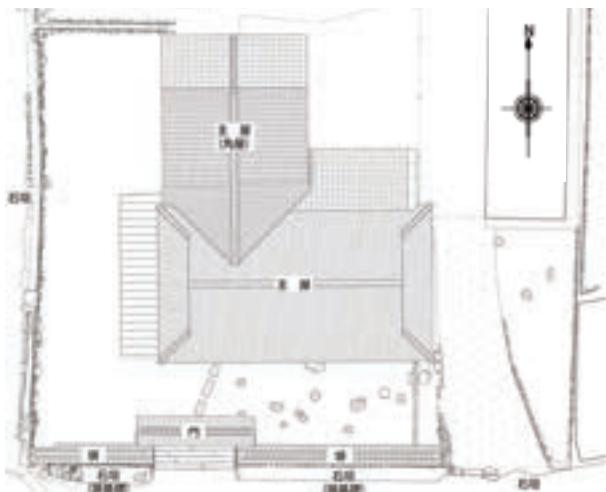
深江は先述のように風待ちに優れた港を持ち、日出城築城の候補地にも挙げられていました。日出藩にとって重要な深江港に営まれた襟江亭は、日出藩主をはじめ他藩の参勤交代の風待ちや日出藩主の狩猟などの休憩施設として利用されました。



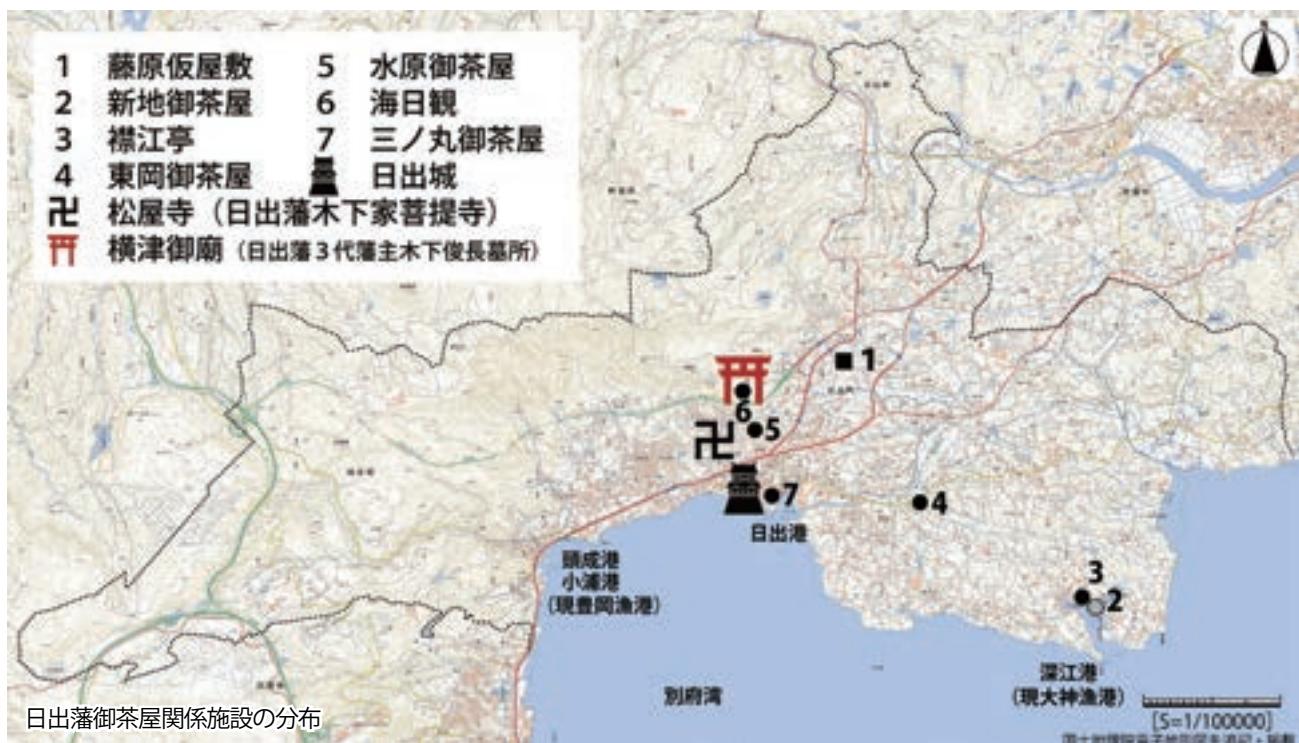
襟江亭全景



襟江亭南面（正面）



襟江亭の構成



襟江亭主屋外観（平成前年）



襟江亭主屋外観（現在）



襟江亭主屋室内（ヒロマ・ザシキ・オナンド）

深江港・襟江亭年表

時代 区分	西暦 和暦	事項	出典	
中世	— —	11世紀初期～南北朝時代、大神氏により襟江に城が築かれたといふ 襟江城に大神から派遣された武士が初めて管理していたといふ	「大友大神氏源流書上巻」「豊後國志賀郡史跡集成」(H.D.) 「大神氏伝来覽書」「大分県史科」	
近世	— —	2月、櫛川忠昌が遠見郷の守を辞職する	「豊後国通見郡知行方日記」「豊後國志賀郡史跡集成」(H.P.)	
1600	慶長 5	8月、豊臣家の命により、太田一吉(豊後白作城主)が櫛川領地丸山6万石受取のため本村へ進軍する。その際、太田軍が本村城攻めの拠点とするため、襟江の古墳を占領しようとしているとの情報を得る。櫛川軍はこれを阻止す「松井文庫所蔵古文書調査報告書」(3巻410号史料)	「豊後国通見郡知行方日記」「豊後國志賀郡史跡集成」(H.P.)	
1601	慶長 6	8月、木下道良が遠見郷に出入郷(日出郷)となる。その際、該地の被植地として日出と襟江が争ひ、日出が譲ばれる この年より日出郷の聚落が始まる。両側は櫛川空堀、右岸堤防は櫛川家臣の穴生經右衛門が行う	『平野也那丸御系図略言』	
1613	慶長 18	延宝、襟江にて舟を10艘行う。そのうち、3艘は襟江にて食事をとる(1/3, 12/3~13~30)	『木下延宝慶長18年日記』	
—	—	襟江の「新地の芝山の下」に、御茶屋が御茶所とともに存在していた	「南大神國跡考」御茶屋の項	
1667	寛文 7	3代木下俊良、現在地に御茶屋を建立させる	「南大神國跡考」御茶屋の項	
—	—	人見竹洞、襟江亭の八景評を詠む	「南大神國跡考」御茶屋の項	
1683	天和 3	櫛川、多動交代に廻し、襟江度で風待ち	「大神氏伝來覽書」「大分県史科」	
1722	享保 7	襟江諸聚ら、庄屋郡共組に農業に関する模擬審を提出する	「豊後國志賀郡共申上使」(個人蔵)	
1730	寛延 3	襟江に新たな街並みを配するため、山側を切り崩して平地を埋め立てる	「南大神國跡考」浜地の項	
1760	宝暦 10	新地に2軒の民家が移住する	「南大神國跡考」浜地の項	
1773	安永 2	8月7日、10代木下俊良は櫛川重賢(肥本藩第9代藩主)と「木下新築襟江亭」に参り	「木下公日記」「木下重賢公御御日記」	
1788	天明 8	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(7/2, 8/22, 10/16, 11/6~22, 12/6~18)	『木下俊懋日記』	
1789	大判 9	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(3/22, 5/19)	『木下俊懋日記』	
1790	寛政 2	11代俊懋、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(3/4~8)	『木下俊懋日記』	
1790	寛政 2	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(8/18, 9/18~26, 11/1~6+9+11+15+16~23~26, 12/1~4+9+11+16)	『木下俊懋日記』	
1791	寛政 3	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(3/6~19~21~25, 2/1~4~9~11~21)	『木下俊懋日記』	
1791	寛政 3	11代俊懋、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(3/4~11)	『木下俊懋日記』	
1792	寛政 4	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(8/3~23, 9/1~4+6~13~18~21~23~28, 11/1~4~9~11~16~18~19~21~25~26, 12/1~5~9~11~16~18~19~21~22~26)	『木下俊懋日記』	
1792	寛政 4	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(1/6~15~21~26, 2/1~4)	『木下俊懋日記』	
1792	寛政 4	11代俊懋、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(3/1~13)	『木下俊懋日記』	
1792	寛政 5	3月5日、中川久利(同藩第2代藩主)、襟江亭にて風待ち	『木下俊懋日記』	
1792	寛政 5	3月7日、久留島通阿森藤第2代藩主、新築襟江亭に招かれる	『木下俊懋日記』	
1793	寛政 7	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(1/19~21, 11/10)	『木下俊懋日記』	
1793	寛政 7	11代俊懋、病氣のため参勤が遅れ、11月の出足となつたため襟江に泊らずに出航	『木下俊懋日記』	
1794	寛政 8	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(2/18~19~20~21, 11/1~6~18~19~22~28, 12/5~8~14~21~26)	『木下俊懋日記』	
1794	寛政 8	11月7日、府内謹、移動交代のため御船を襟江に停泊させ、枕高瀬に御在所交代のため府内謹の母着日を伝達	『竹尾瀬町役所日記』	
1795	寛政 9	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(1/31, 2/3~11~15~18~19)	『木下俊懋日記』	
1795	寛政 9	11代俊懋、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(3/6~9)	『木下俊懋日記』	
1795	寛政 9	3月9日、久留島通阿森藤第2代藩主、新築襟江亭に招かれる	『南大神國跡考』	
1795	寛政 9	二宮高麗(郡守)、「南大神國跡考」に襟江亭のこと記す	『南大神國跡考』	
1796	寛政 11	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(1/9~23~28, 2/2~11~18)	『木下俊懋日記』	
1796	寛政 11	11代俊懋、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(3/7~10)	『木下俊懋日記』	
1796	寛政 12	11代俊懋、舟などの間に襟江亭を利用する(6/3, 6/4~28, 9/16~27, 10/2~4~9~11~16~18~26, 11/5~9~11~15~22~23, 12/1~2~4~9~11~15~19~21~22)	『木下俊懋日記』	
1797	享和元	11代俊懋、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(1/6~9)	『木下俊懋日記』	
—	—	帆足萬里、移動途中の俊懋の舟により人見竹洞の八景評にならない、襟江亭の八景評を詠む	『西境先生詩稿』	
1810	文化 7	2月9日、伊能忠敬一行が襟江の御高瀬にて中食をとる	『伊能忠敬歌詞集』	
1820	天保 10	野内謹、多動の風待ちのため襟江亭に泊する(9/6~30~11/10)	『御事相日記』「府内謹記録」	
1840頃	幕末	13代木下俊良、襟江にて退居	『増補帆足萬里全集』(巻)	
1863	文久 3	6月9日、萬國船に対する備えを定める。その内で襟江近辺に住む社年の村人は御茶屋に雇まり、防備の任せ業たず	「文久二年 萬國船御手配御之写」「日出町誌」史料編30頁~80頁ページ	
1868	明治 1	4月、13代俊良は東京より歸り襟江の「御屋敷」に住む	『木下家系図附行鑑』木下大和守俊良公の項	
近代	1870	明治 3	4月30日、俊良は明治政府からの御持しにより襟江から上京し、明治天皇に謁問する	『木下家系図附行鑑』木下大和守俊良公の項
1873	明治 4	鹿蹄就道により、俊良は襟江から東京に移住する	『木下家系図附行鑑』木下大和守俊良公の項	
		鹿蹄就道の際、小石川頭内(吉神社官司)が木下家から襟江亭を贈り受けた	『平成4年度日出町襟江亭調査報告書』	

松本 凌（日出町教育委員会社会教育課文化財係技師）

### III 襟江亭の調査

現存する襟江亭には、どのような歴史や文化財としての価値が秘められているのか。様々な分野・視点からアプローチし、調査・検証を行いました。

#### III-1 建築

襟江亭は寛文7年（1667）年の造営以降、増改築や修理を繰り返し、今日に受け継がれてきました。その建築構造の特徴や部材の痕跡より、襟江亭はまず、深江港を臨むべく南一面に矩折りの縁側を巡らした東西軸の主屋が建築されました（玄関を設けない略式の建物の可能性あり）。その後間もなく、主屋の北西に南北軸の角屋が増築され、主屋の南側の門が加えられ、その左右の土塀は江戸時代を通じて維持されてきたものとみられます。



襟江亭主屋の室内（ヒロマ→ザシキ）

#### III-2 年代測定

襟江亭主屋の建築部材（柱、梁、長押 – 室内を飾る化粧材 –）を、自然科学的手法「放射性炭素（<sup>14</sup>C）年代法」を用い、年代測定を行いました。その結果、寛文7年当時、またさらにそれ以前に



襟江亭主屋の測定部材

さかのぼる年代の建築部材が確認されました。襟江亭は『南大神村図跡考』の記述のごとく、初代藩主木下延俊が営んだ御茶屋部材を再利用し、3代藩主木下俊長の命により寛文7年に造営されたものであることが、科学的に裏付けられました。

#### III-3 釘隠（飾金具）

襟江亭主屋の室内や縁側に設えられた長押には、「釘隠」の飾金具が打ち込まれています。その形状や図様、装飾、製作技法からは、桃山時代より江戸時代初期にみる武家建築の伝統意匠、また、17世紀半ばから後半にかけての宮廷人の美意識にも通じる意匠性が読み取れます。襟江亭には、寛文7年の造営当初に製作された釘隠が現存していることが明らかとなりました。



襟江亭主屋の釘隠

#### III-4 瓦（軒瓦）

襟江亭の屋根瓦（軒瓦）からは、寛文7年以前の製作とみられる軒平瓦や軒丸瓦が数多く確認されました。襟江亭は瓦からも、初代藩主木下延俊が営んだ御茶屋の部材を転用して造営されたことが明らかとなりました。造営当初の屋根軒先を飾った瓦文様は、軒平瓦は中世末から近世初頭に全国の城郭などに採用された「三葉文」、軒丸瓦は日出藩木下家の家紋「沢瀉紋」で、襟江亭は日出藩にとって重要な政治的施設であったことがうかがえます。



襟江亭の屋根瓦（沢瀉紋軒丸瓦・三葉文軒平瓦）

### III-5 石垣

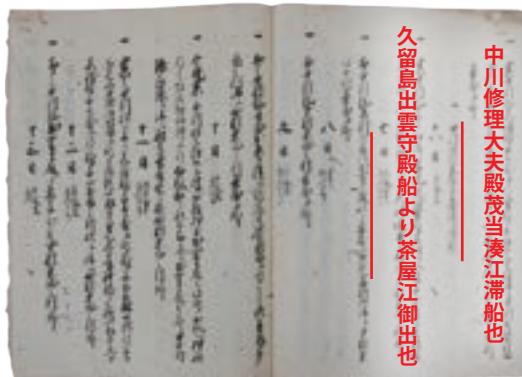
襟江亭の南三方を廻る石垣の内、南面（正面）  
の  
石垣は大ぶりの野面石・粗割石を横置きに布積みし、一部に鏡積み（石垣表面を巨石で飾る技法）  
が駆使されています。出角部は控えの短い大ぶり  
の粗割石を算木積みし、角脇石はありません。石  
材にみる矢穴痕（クサビを打ち込む穴の跡）は大  
ぶりで、襟江亭造営以前の江戸時代初期の構築と  
みられ、その当時深江港には日出藩の重要な施設  
が営まれていたことがうかがえます。



襟江亭南面（正面）の石垣

### III-6 史料

参勤交代において深江港には日出藩に限らず、  
姻戚・親交関係にあった熊本藩細川氏をはじめ、  
森藩久留島氏、府内藩松平氏、岡藩中川氏など他  
藩の船団が寄港し、時に襟江亭を利用しました。  
襟江亭には、深江に逗留する大名をもてなす迎賓  
館としての機能があったのです。このほか、地図  
測量に赴いた伊能忠敬一行の襟江亭での休息、人  
見竹洞（幕府儒官）が詠んだ襟江亭より臨む深江  
の八景詩（漢詩）も注目されます。



日出藩 11代藩主木下俊懋日記（寛政 5年）

### III-7 類例

襟江亭に通じる御茶屋の建築遺構として、九州  
には南関御茶屋（熊本県 / 1850 年築）、時津御茶  
屋（長崎県 / 1847 年築）などが挙げられ、近年  
には熊本地震により失われた御茶屋もあります。

こうした御茶屋の類例遺構が造営された年代は幕末であるのに対し、襟江亭は唯一 17 世紀にさかのぼります。また、風待ちの御茶屋の機能を考慮すれば、同様の御茶屋遺構を現在他建築に見出すことはできません。



南関御茶屋（国史跡 / 熊本県）

## 襟江亭の文化財保護評価

襟江亭は、建設年代が寛文 7 年（およそ 350 年前）という江戸時代でも早い時期にさかのぼる、武家文化が生み出した九州では数少ない建築遺構です。その意匠には当時の宮廷を含む上層階級に共有される美意識が反映されており、機能的には風待ちの御茶屋という今となっては全国的にも極めて稀な価値を持つ建築です。



深江港と襟江亭の遠望



襟江亭より深江の港を望む

## IV 襟江亭の評価－襟江亭の原姿を考える－

### はじめに

第13代俊敦 明治元(1868)年4月～4(1871)年 襟江亭に住む

慶應3(1867)年10月 大政奉還 → 参勤交代制廃止

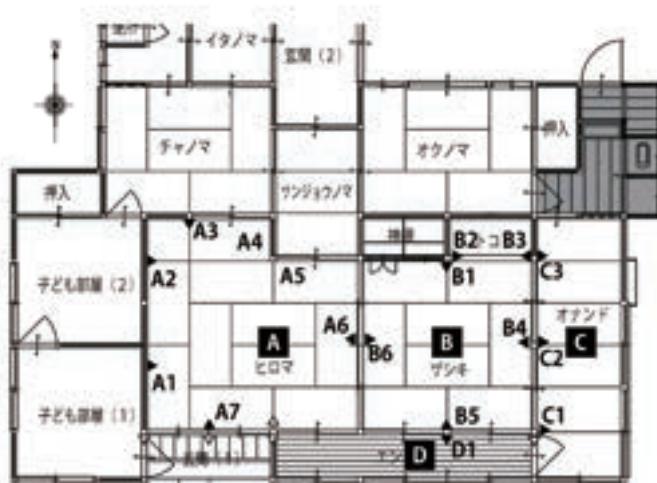
明治4(1871)年7月 廃藩置県 → 知藩事を廃し東京在住に伴い

⇒参勤交代廃止で不要になった襟江亭を住居として改修

### 1 襟江亭の玄関及び門について

玄関及び門は後の修築による … 目釘穴及び建築部材から

⇒もとの門・玄関はどこにあったのか → ジオラマ



釘隠の位置 (▼: 釘隠 ▽: 釘隠痕跡)



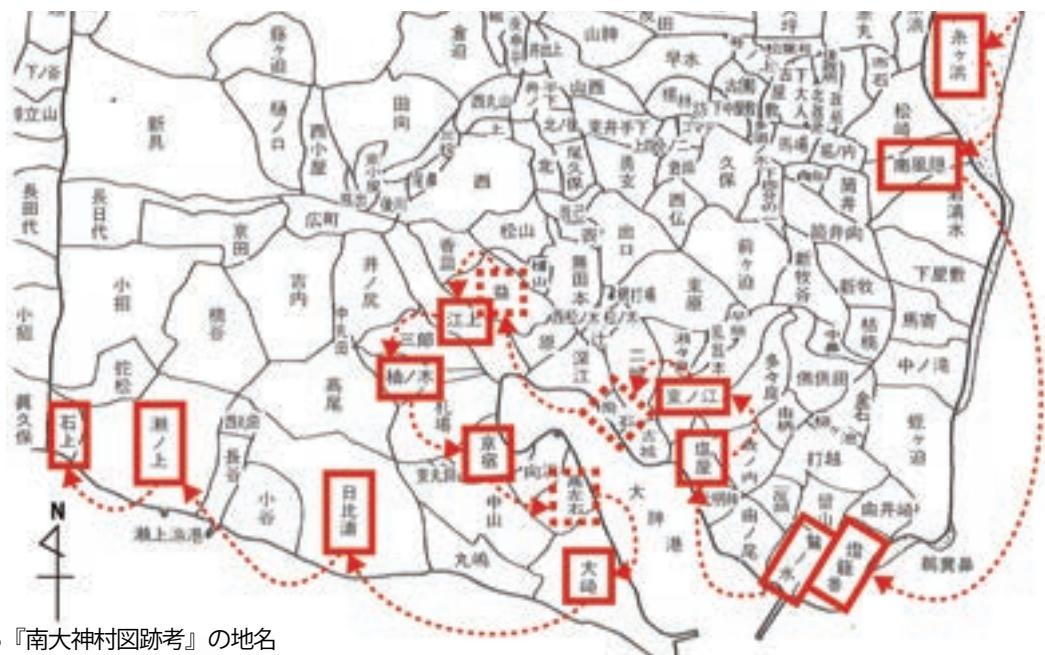
襟江亭のジオラマ

### 2 初代延俊が造った御茶屋について

初代延俊が造った御茶屋を地引して襟江亭を整備？

…炭素同位体法による測定→内法長押…1667(寛文7)年より古い！ 瓦なども

→延俊が建てた御茶屋の「新地」とは？



字図にみる『南大神村図跡考』の地名

### 3 襟江亭の「賄い」について

「賄い」はどうなっていたのか？

→ 地元での聞き取り…裏から長廊下で「伏見屋」とつながっていた



表1 深江の屋号等一覧

番号	屋号等	氏名	職業	備考	番号	屋号等	氏名	職業	備考	番号	屋号等	氏名	職業	備考
1	大崎丸	北野	漁業		18	岩井屋	佐々木	製麿		35	浜田屋	北野	製農家	
2	柏根堀	堀	造船		19	日進	堀			36	浜田屋食店	北野	遊郭	
3	お大師鼻	植野	漁業		20	お茶屋真	北野	漁業・農業		37	福磨屋	上野	種草屋	
4	立石屋	上野	漁業		21	山口屋	北野	イワシ		38	角屋	岩尾		
5	京泊	佐藤	宿屋・漁業		22	新川	上野	芝原小屋		39	若松屋	北野	梨農家	
6	札場	三浦			23	柳屋	清家	仲買		40	網屋	広津	明元	
7	長土堀	松本			24	新屋	広津	農業		41	岩崎屋	上野	農業	
8	新屋				25	米屋	広津	米問屋		42	高田屋	北野	漁業	
9	豆高屋	安藤	豆高屋		26	米屋分家	広津	漁業		43	高見屋	北野	農業	上深江
10	菓子屋	上野	菓子製造		27	北野屋本家	佐藤	駄便局		44	北野屋東	佐藤	農業	
11	左官	上野	左官	近年か	28	北野屋	佐藤	酒屋		45	川崎屋	上野	農業	
12	伏見屋分家	鈴木			29	新店(アベサ)	阿部	商店		46	折屋	堀	醤油	
13	茶碗屋	萩野	深江漁		30	麻屋	宮崎	稚貝		47	垣居	上野	漁業	
14	井筒屋	藤本	漁業		31	五辻	北野	農業	上深江	48	お庄屋	堀		
15	港屋	河野	漁業・農業		32	平上	北野	ミカン農家		49	襟江丸	堀	漁業	
16	伏見屋	鈴木	醸元・製塩		33	平下	北野	農業		50	城			地名
17	不明	堀			34	川端屋	北野	農業						

## V 襟江亭主屋解体保存工事（概要）

### 【経過】

- 1 当初建設・・・寛文7(1667)年 江戸期の改修は不明。
- 2 明治初期の改修
  - イ・・建具類。神棚。天井板等々
  - ロ・・小壁の斜材補強。
- 3 昭和10年頃・・・座敷上部の屋根にくぼみが出来る。  
小屋組みを補強する。
- 4 昭和30年頃・・・オナンド北の便所を改修する。
- 5 昭和50年頃
  - イ・・子供部屋を増築。
  - ロ・・内玄関、ホール、便所に台所を増改築する。
  - ハ・・茶の間西面に出窓を作る。
- 6 平成8年・・・北野熊大教授の踏査。
- 7 平成16年・・・建築士会別府支部の調査。  
主棟の瓦を下し、格納する。
- 8 令和7年・・・全棟の分解格納。以上

### 【分解格納の作業要領】

外部足場・・・くさび足場、6か月間

内部足場・・・棚足場要

部材清掃・・・格納全部材。くぎ抜き。木箱に釘・金物を納める。

格納場所・・・川崎工業団地北棟。保存棚を設置格納

分解作業 手壊し、積込は重機と併用する。

すべての部材にしな合板の木札を取り付ける。油性マーカで表記

釘・金物の取り外しは、木部保護のため保護板を当てる。

現在釘で止めてある部材双方にチョウキング（和釘=□ 洋釘=○）

土台の柱位置は、朱墨で痕跡表示

土台下布礎石・床束石にも朱墨で痕跡表示

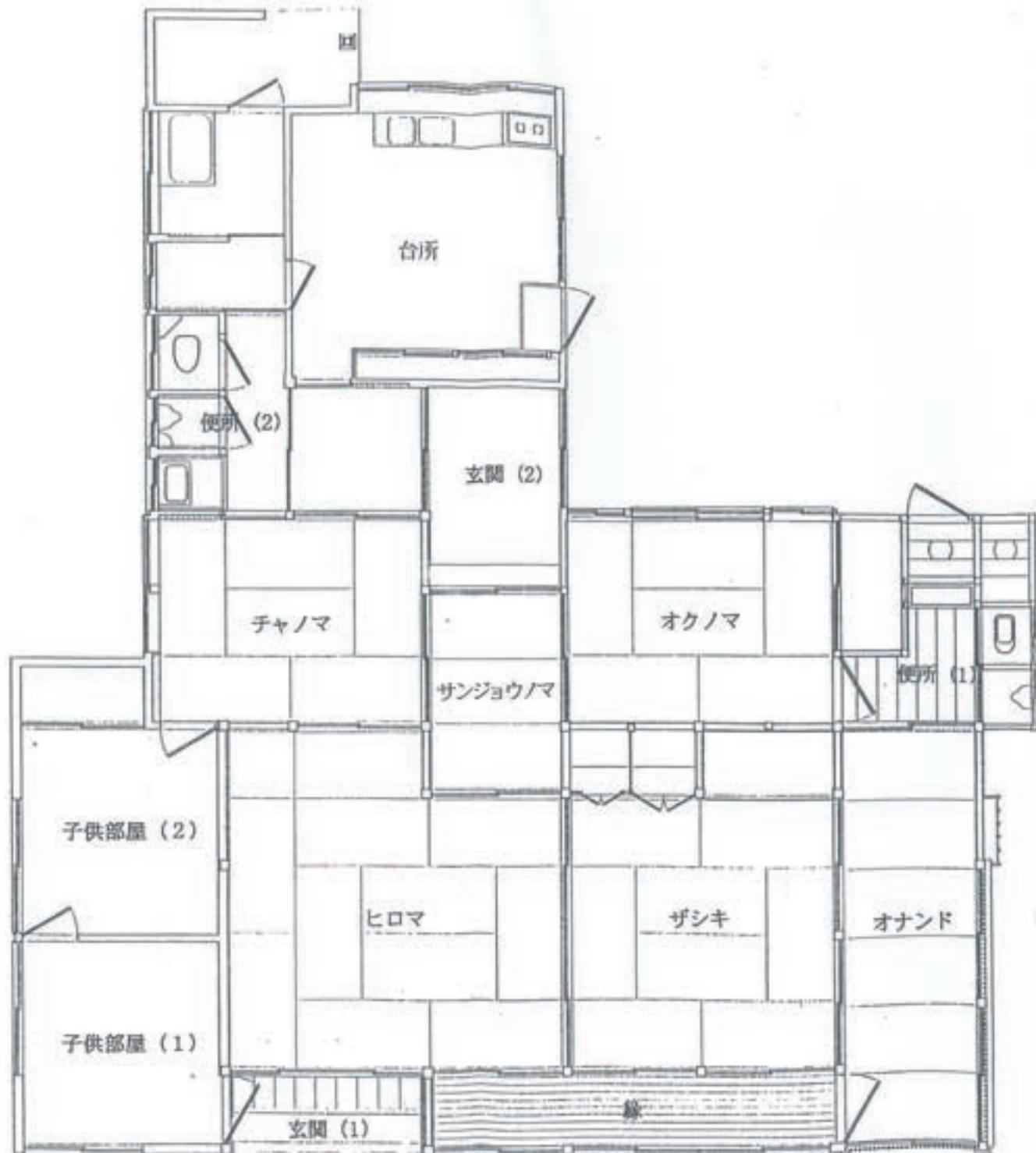
礎石類は現場保存する。

犬走・土間及び布基礎等のコンクリート部分は撤去処分する。

木材調書の作成。木札の止付け位置は南面と東面を基本とする。

格納庫内の保存材目録を作成する。

。



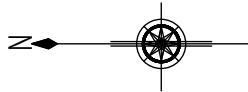
0 1 2 3M

襟江亭平面図（平成 8 年 熊本工学会）

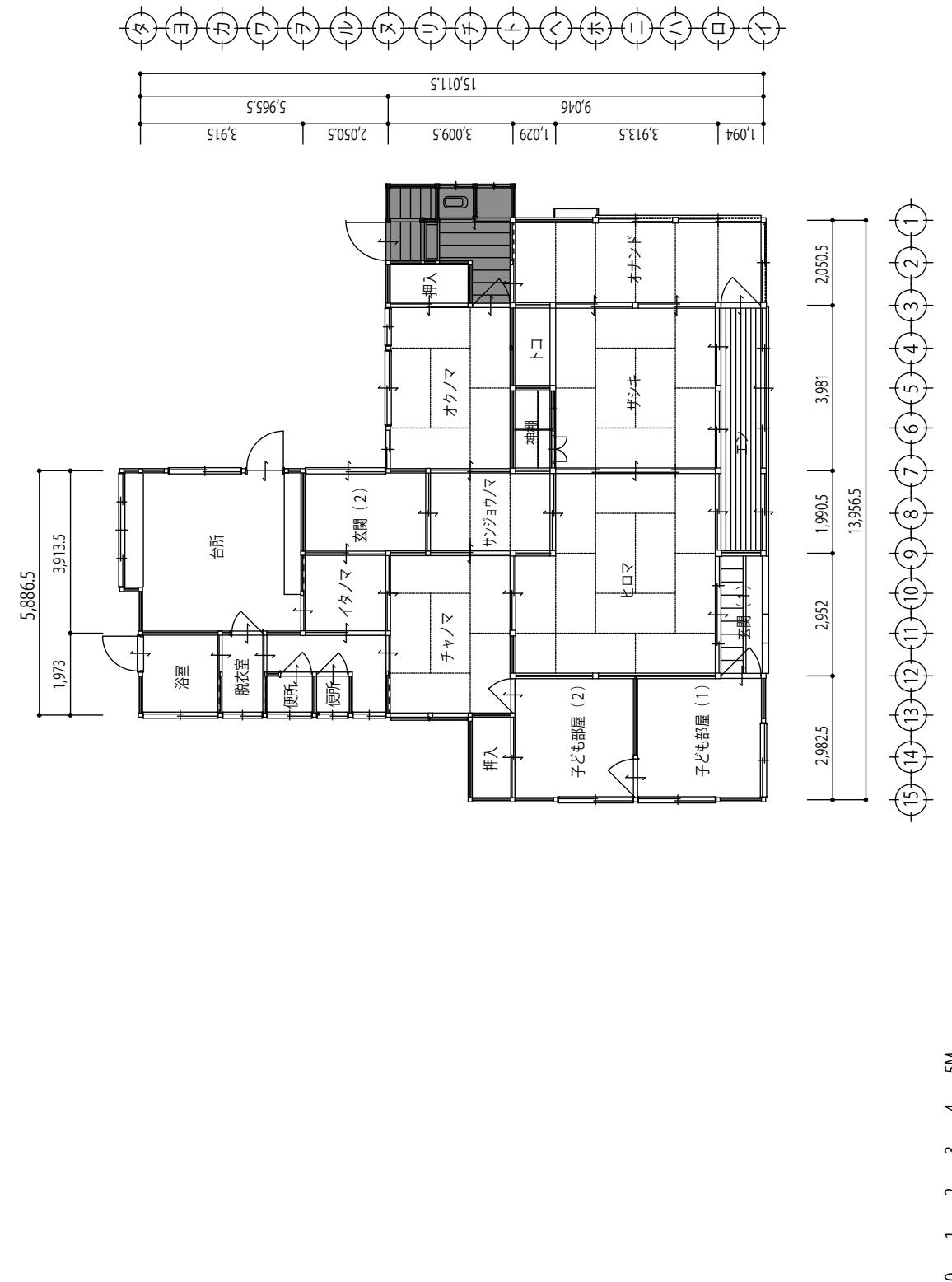
# 図面図版

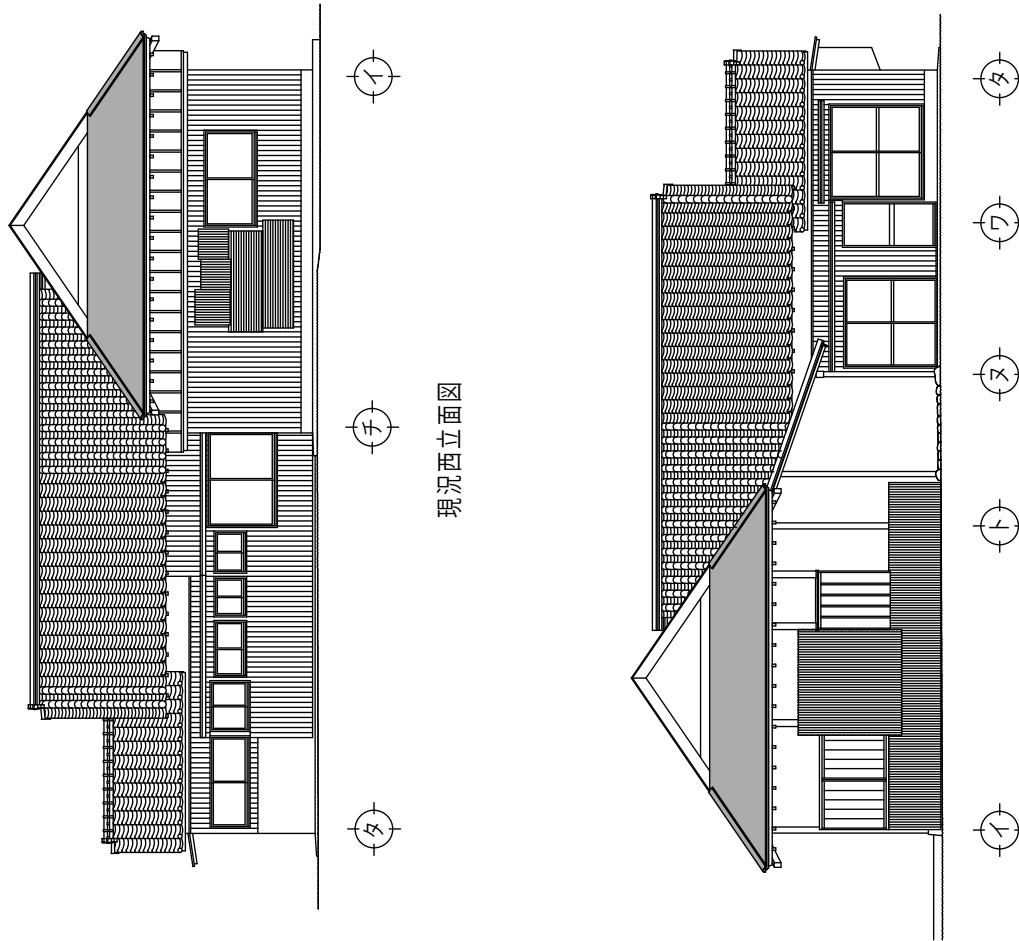
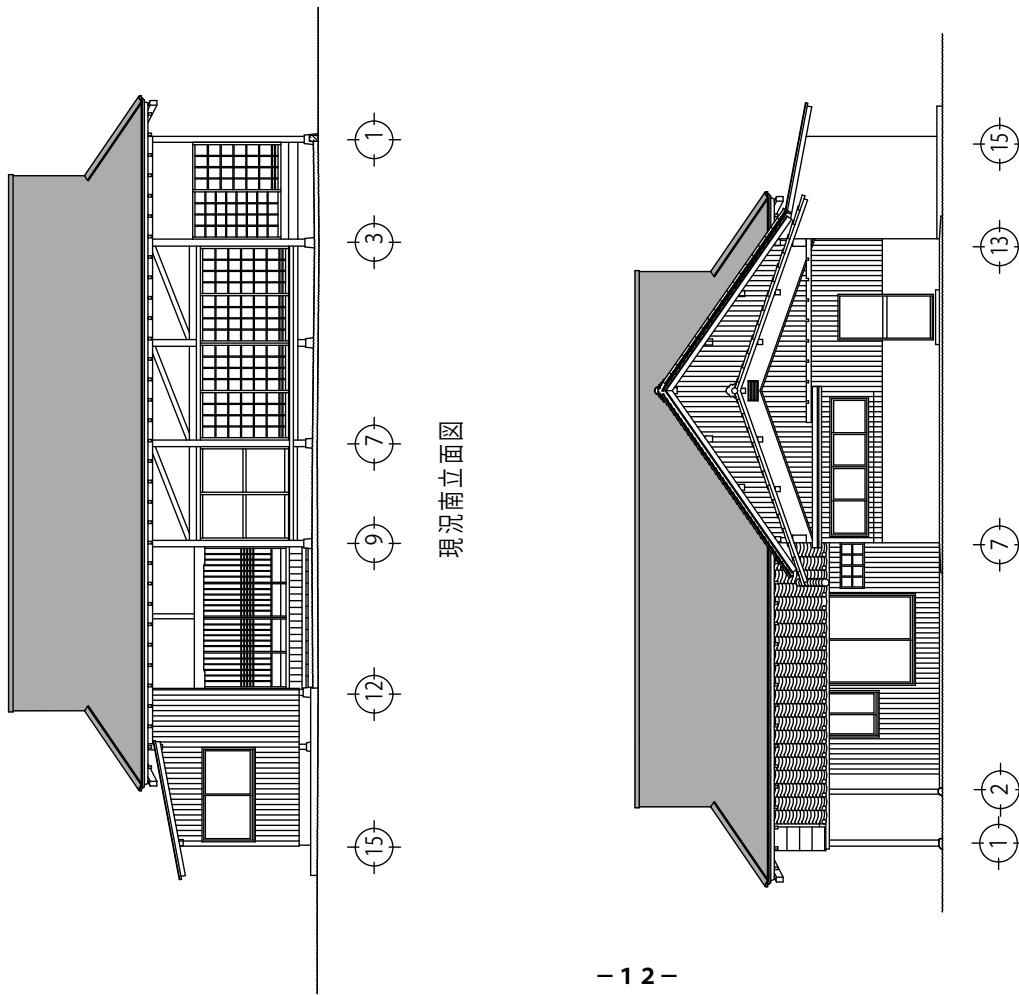
『日出藩御茶屋襟江亭調査報告書』抜粋





図面図版 1 現況平面図 ( $S=1/150$ )





現況北立面図

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

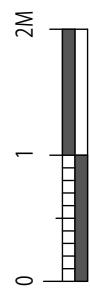
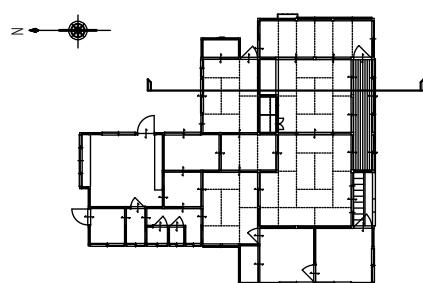
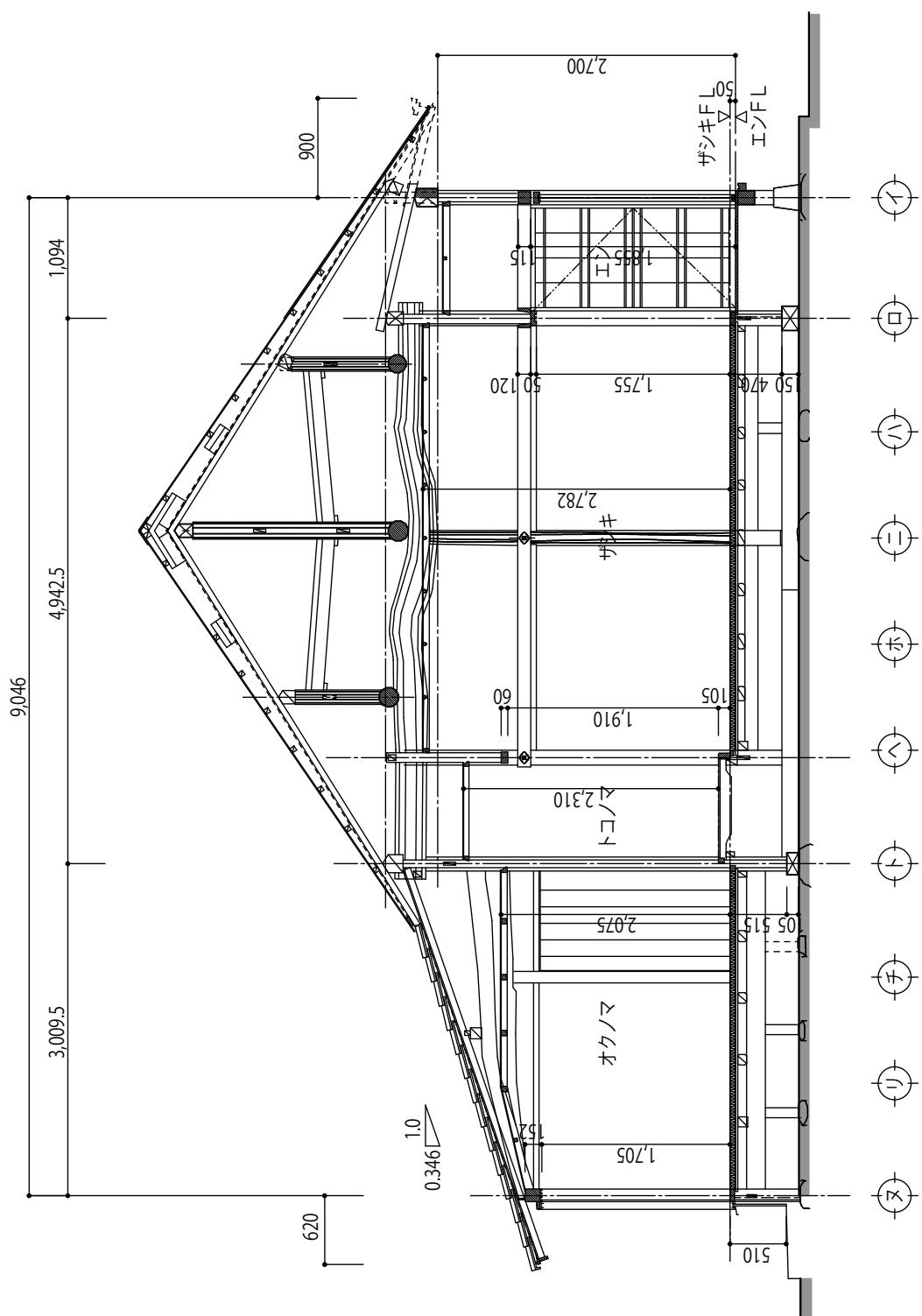
14

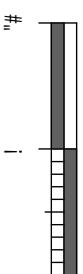
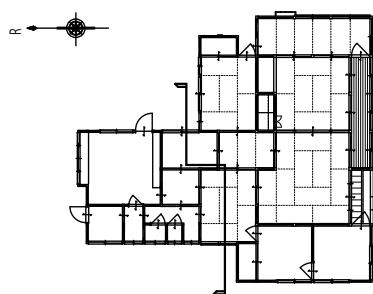
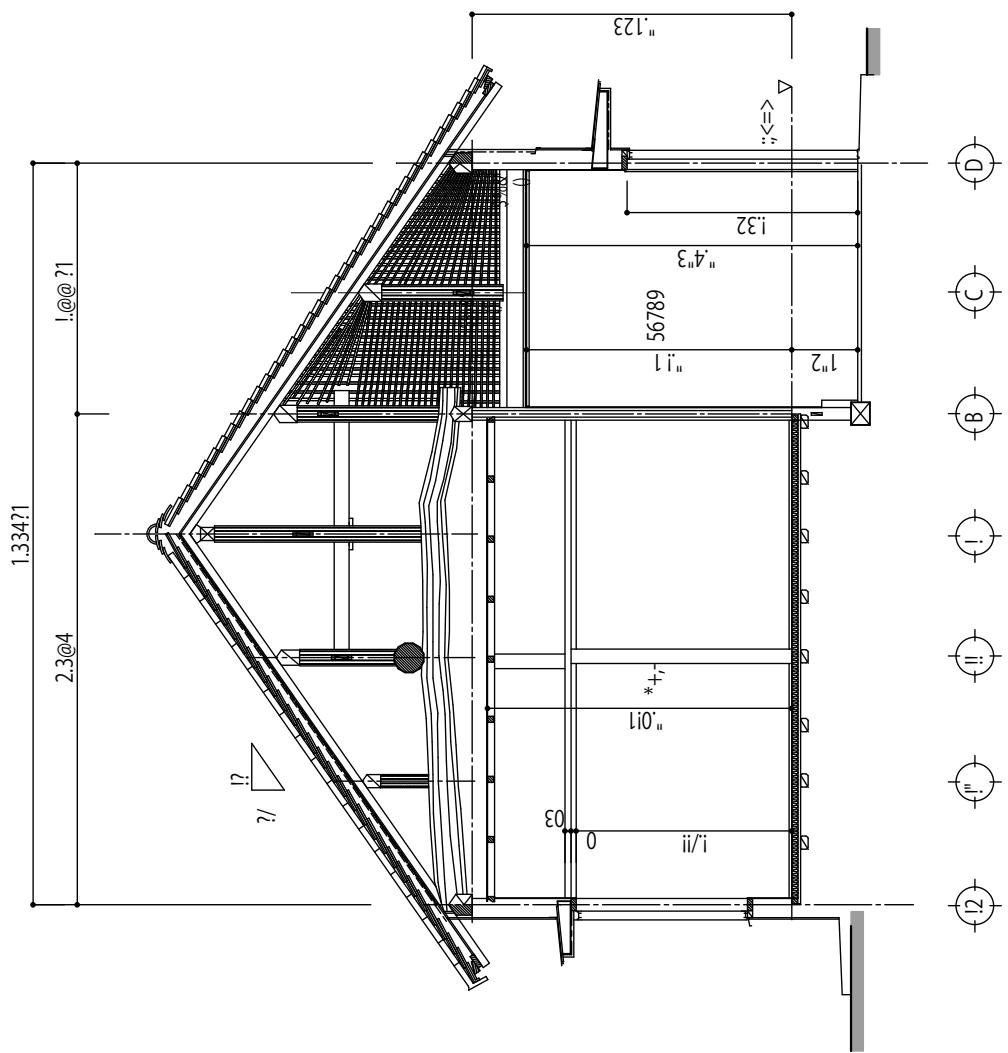
15



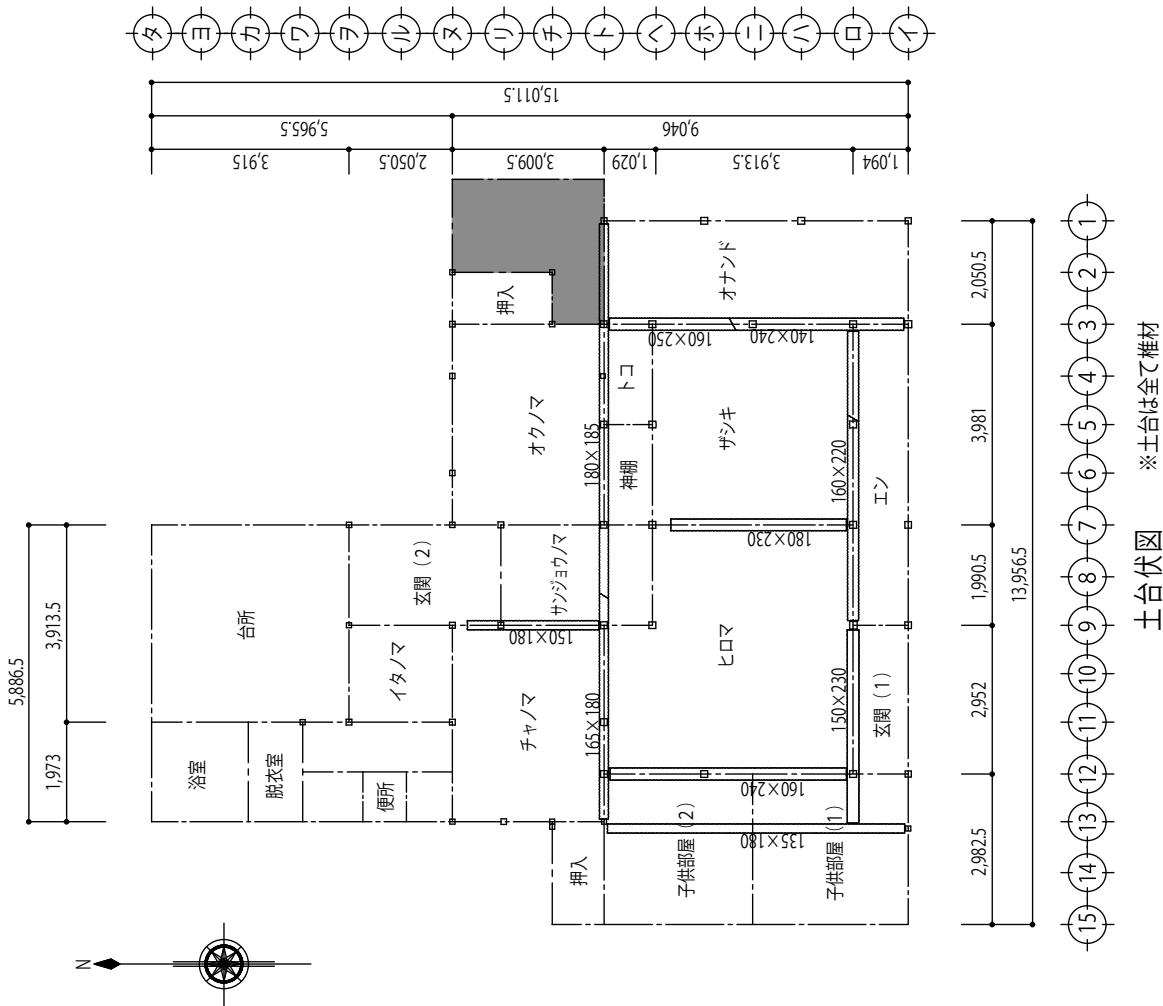
図面図版2 現況南立面図 (S=1/150)  
図面図版3 現況北立面図 (S=1/150)  
図面図版4 現況西立面図 (S=1/150)  
図面図版5 現況東立面図 (S=1/150)

図面図版6 現況矩計図[ザシキ] (S=1/60)



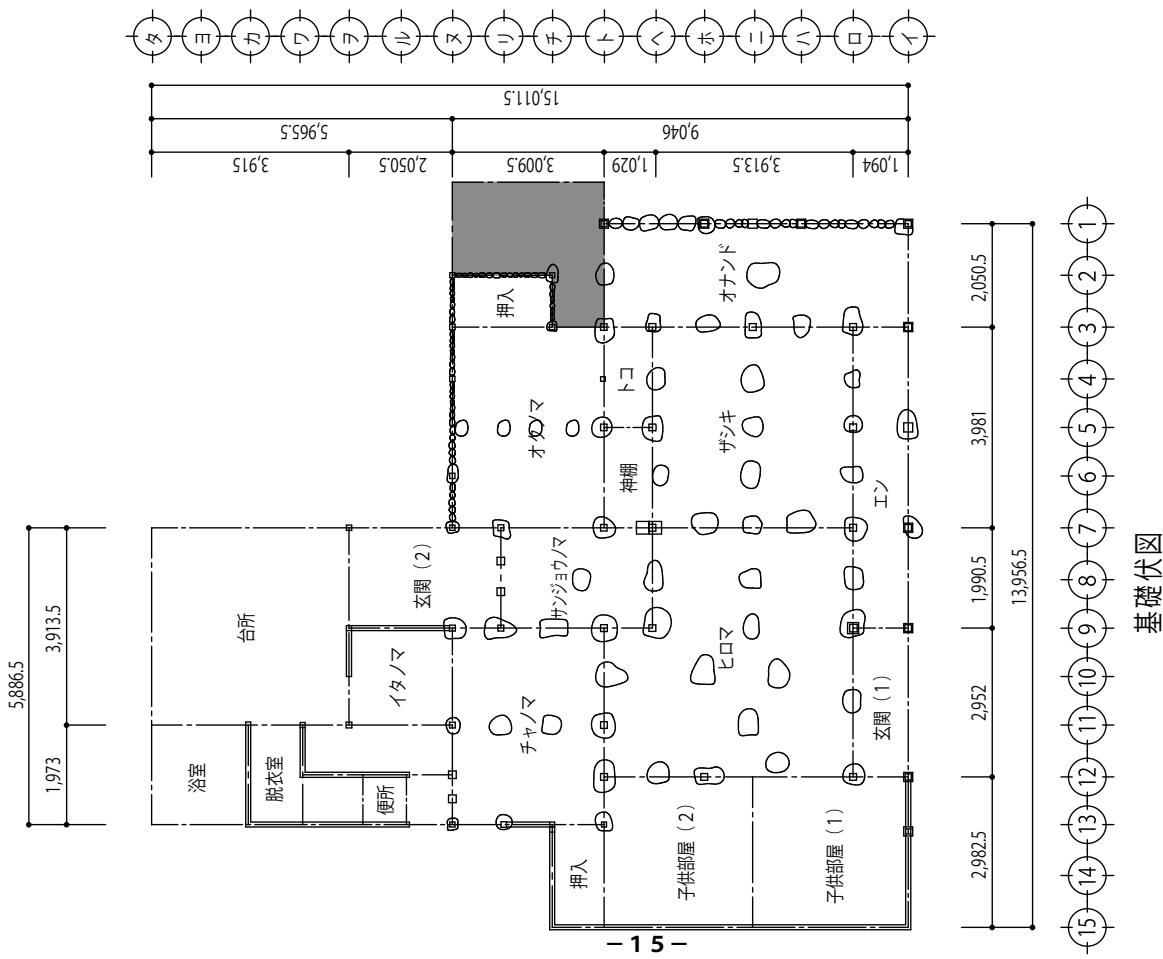


図面図版7 現況鉄計図 [チャノマ] (S=1/60)



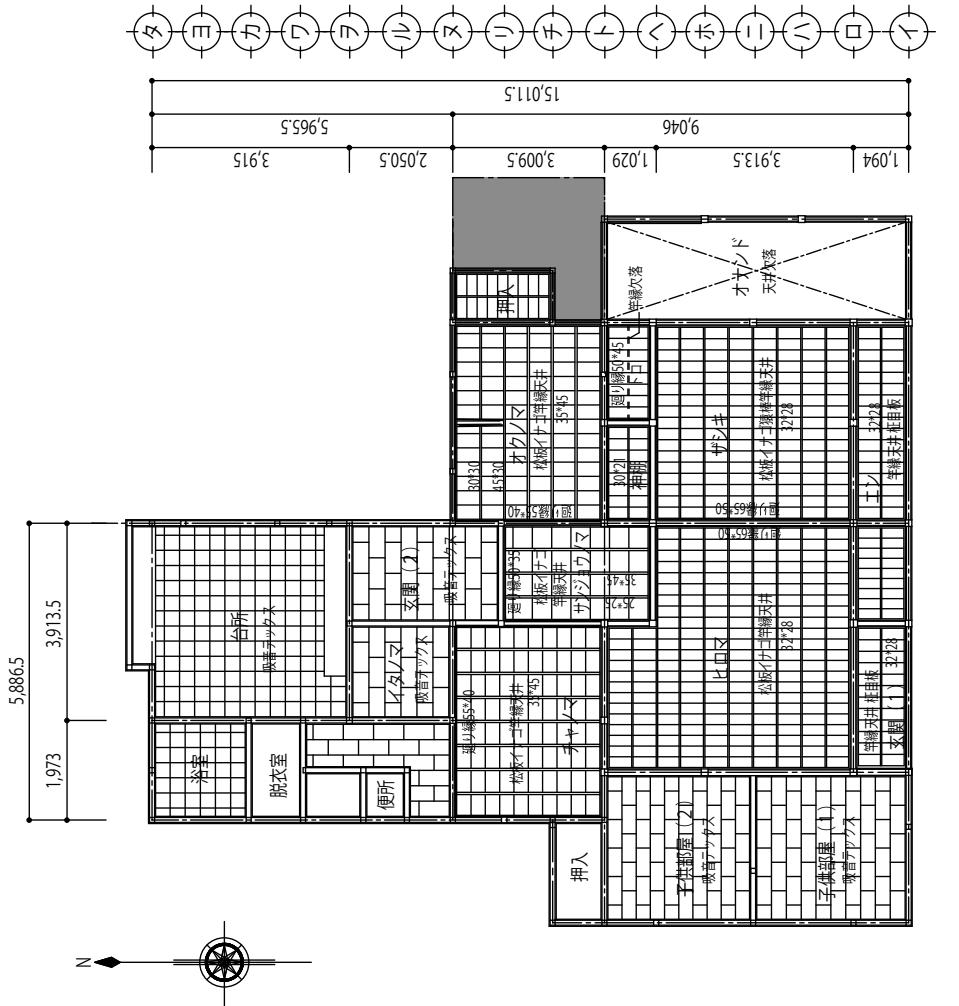
現況基礎伏図(S=1/150)  
現況土台伏図(S=1/150)

※王谷は全て権材



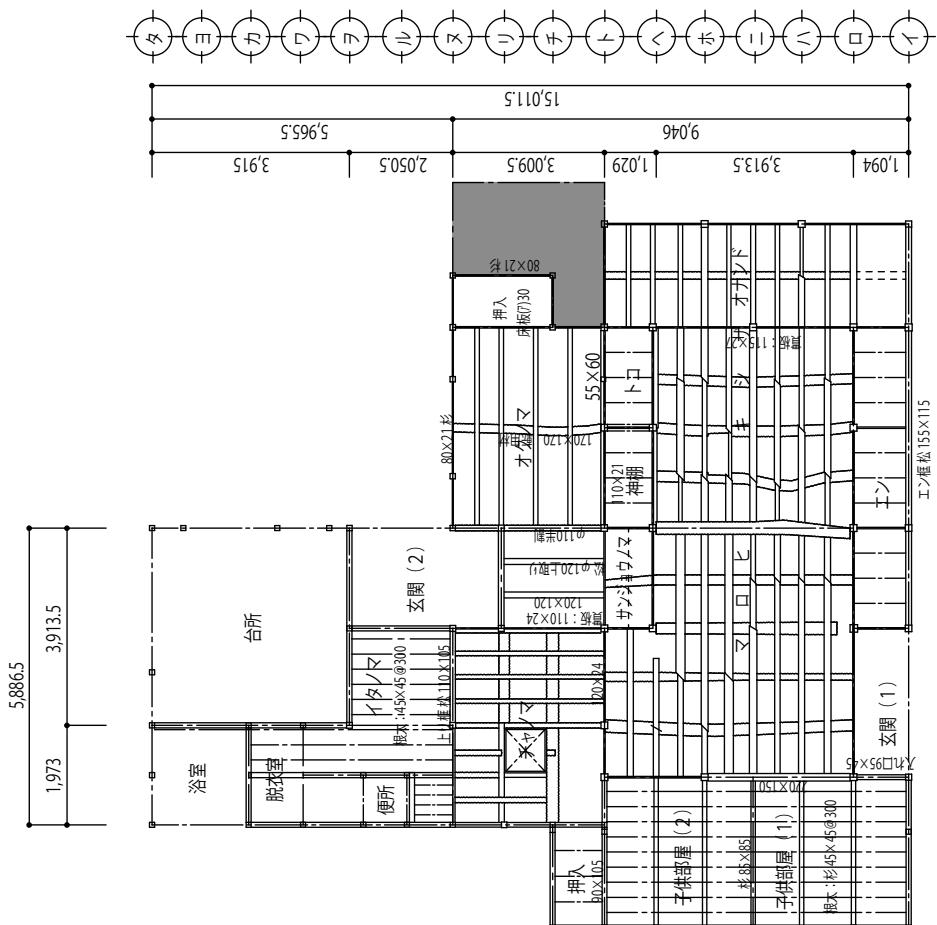
基盤伏図





現況天井伏図

図面図版10 現況床伏図 (S=1/150)  
図面図版11 現況天井伏図 (S=1/150)

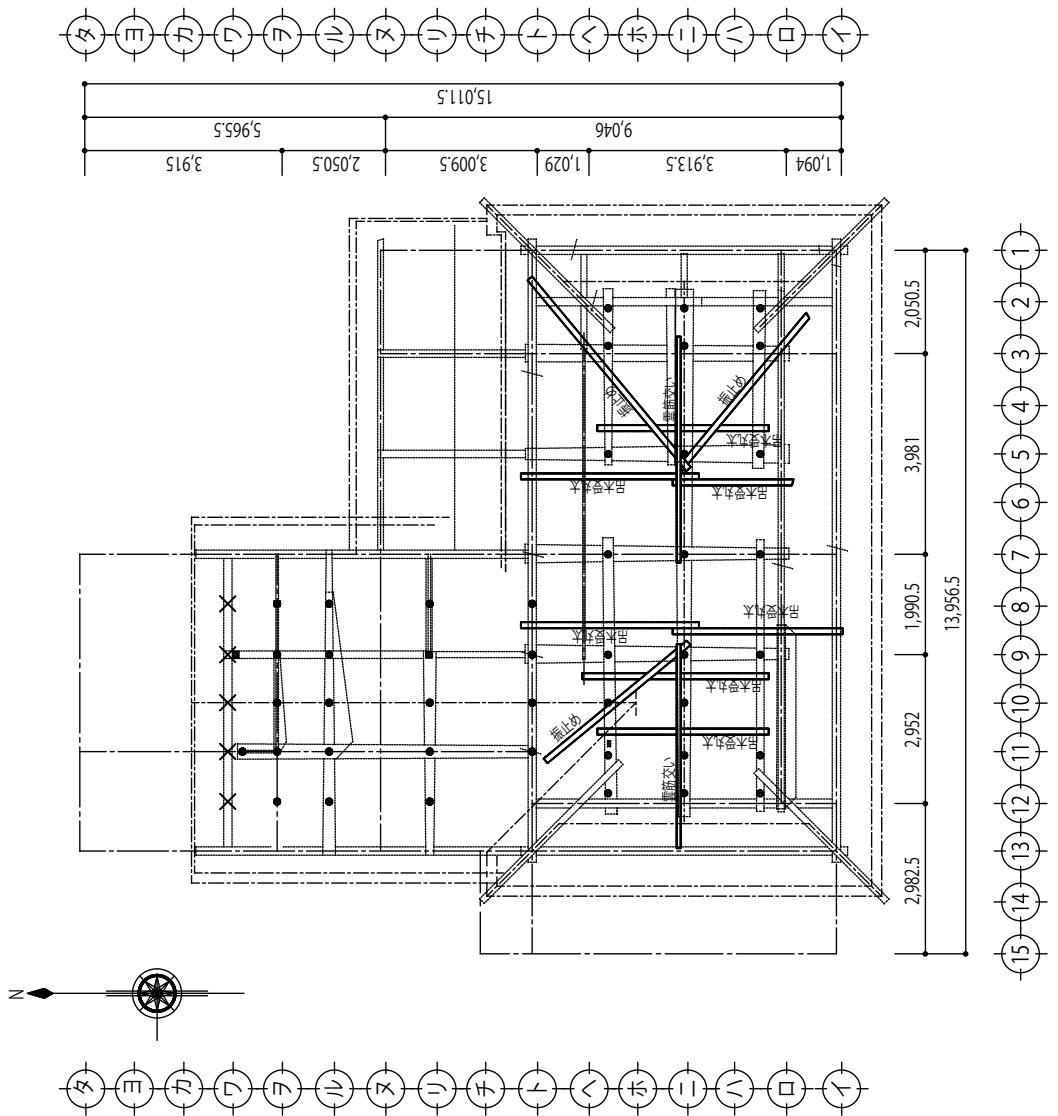


現況床伏図

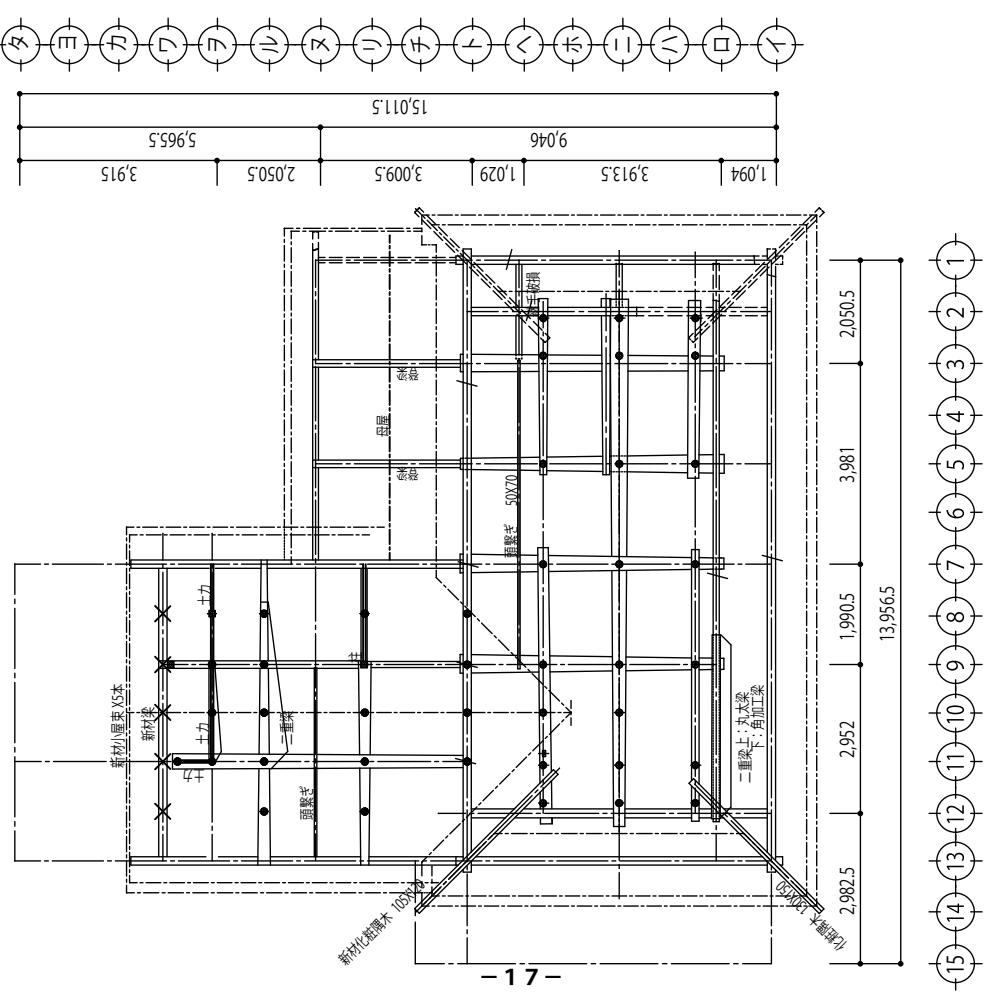
0 1 2 3 4 5M

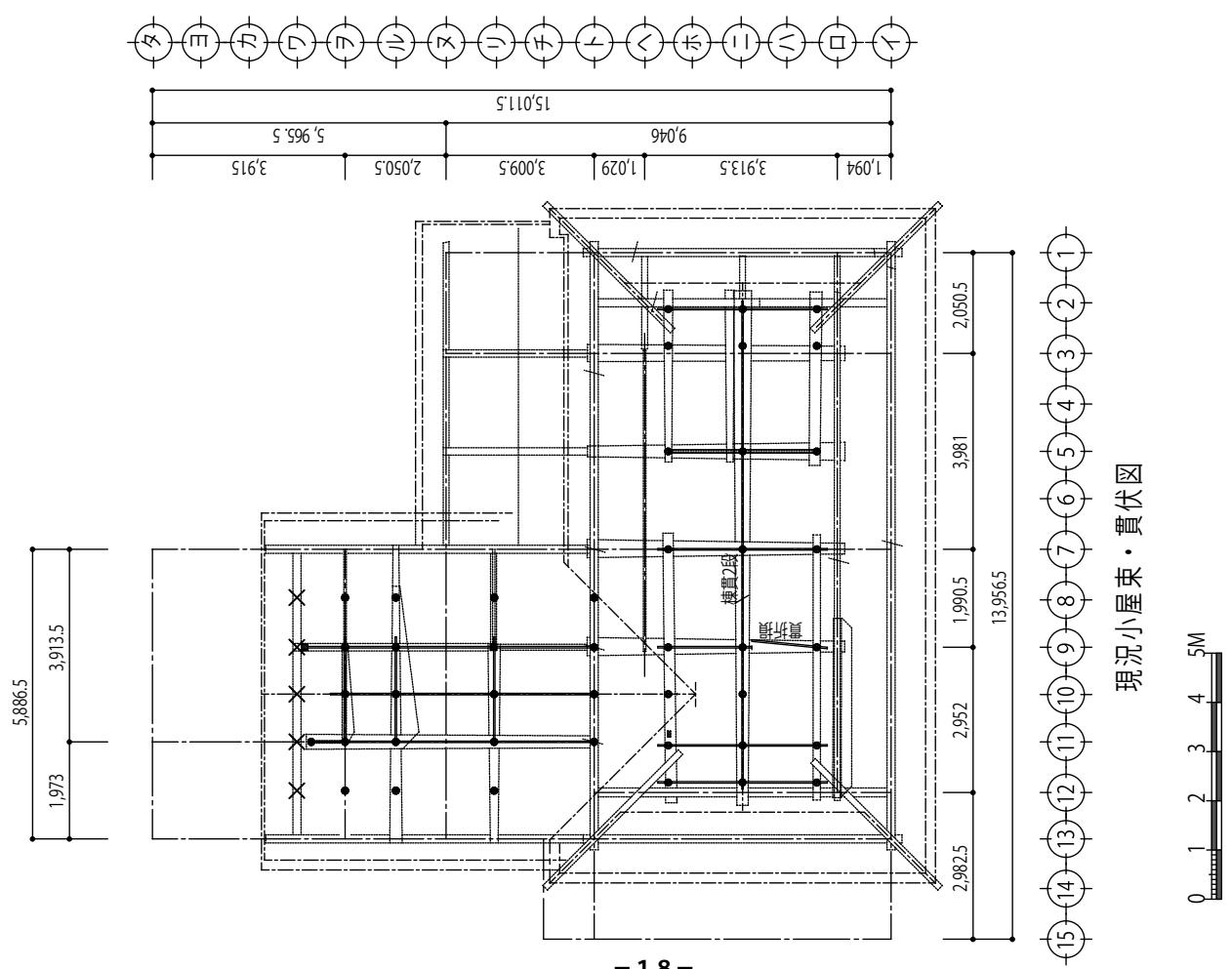
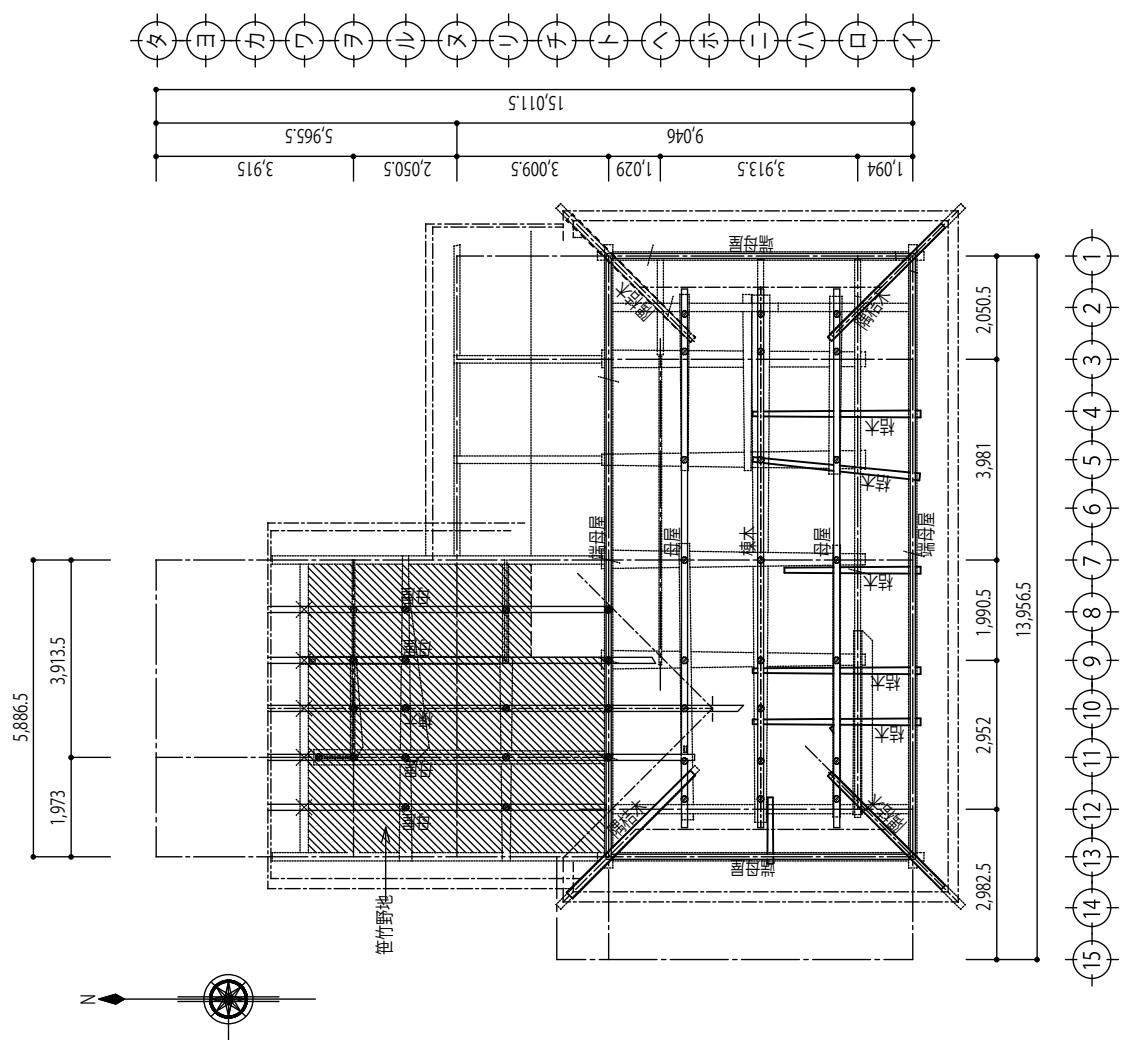
図面図版12 現況小屋梁伏図 (S=1/150)  
図面図版13 現況小屋吊木受・振止伏図 (S=1/150)

現況小屋吊木受・振止伏図



現況小屋梁伏図





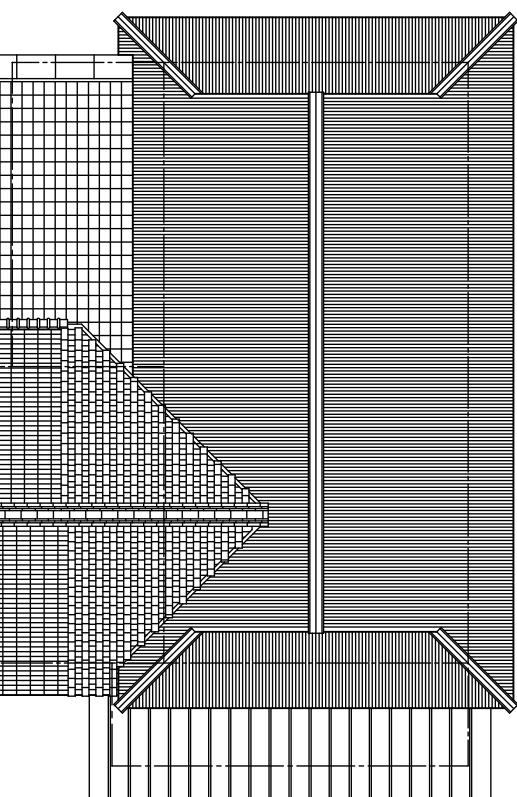
図面図版14 現況小屋束・貫伏図 (S=1/150)  
図面図版15 現況小屋母屋・桔木伏図 (S=1/150)

現況小屋母屋・桔木伏図

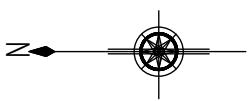
図面図版16 現況屋根状図 (S=1/150)

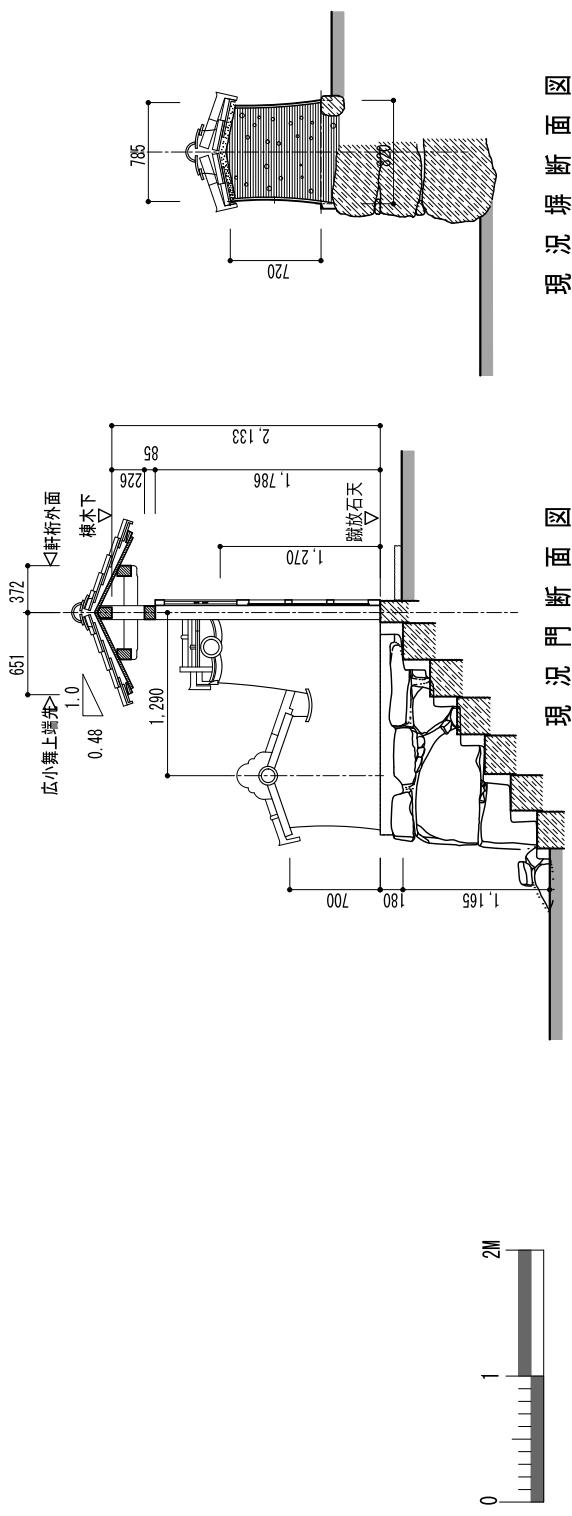
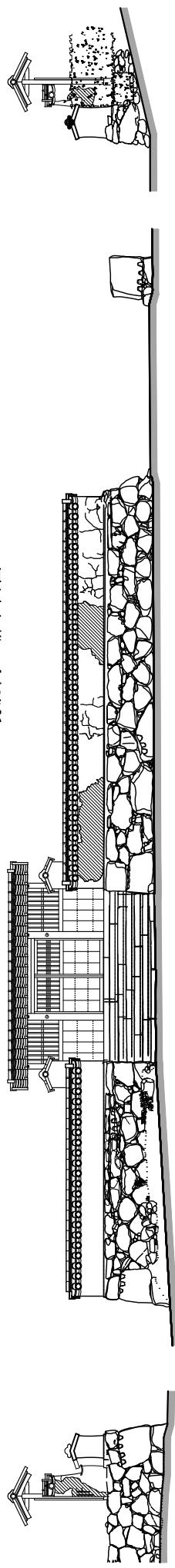
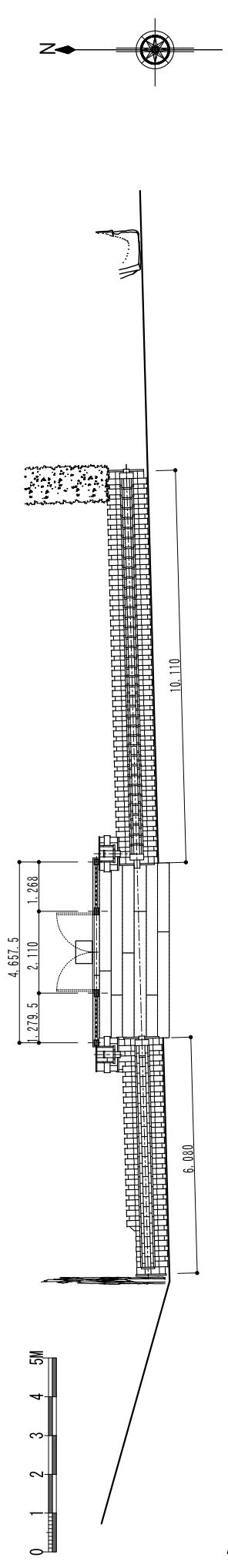
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15

5M  
4  
3  
2  
1  
0

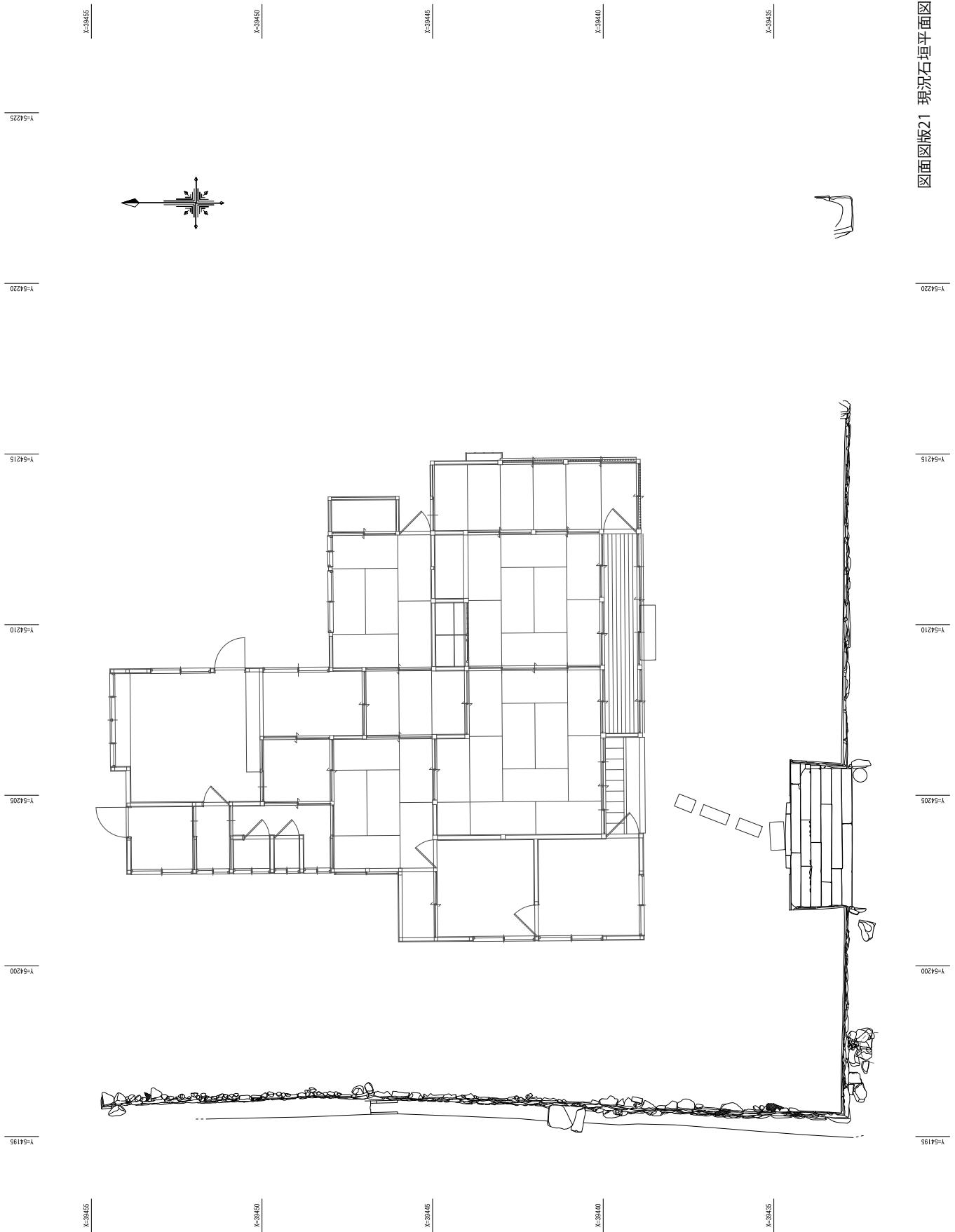


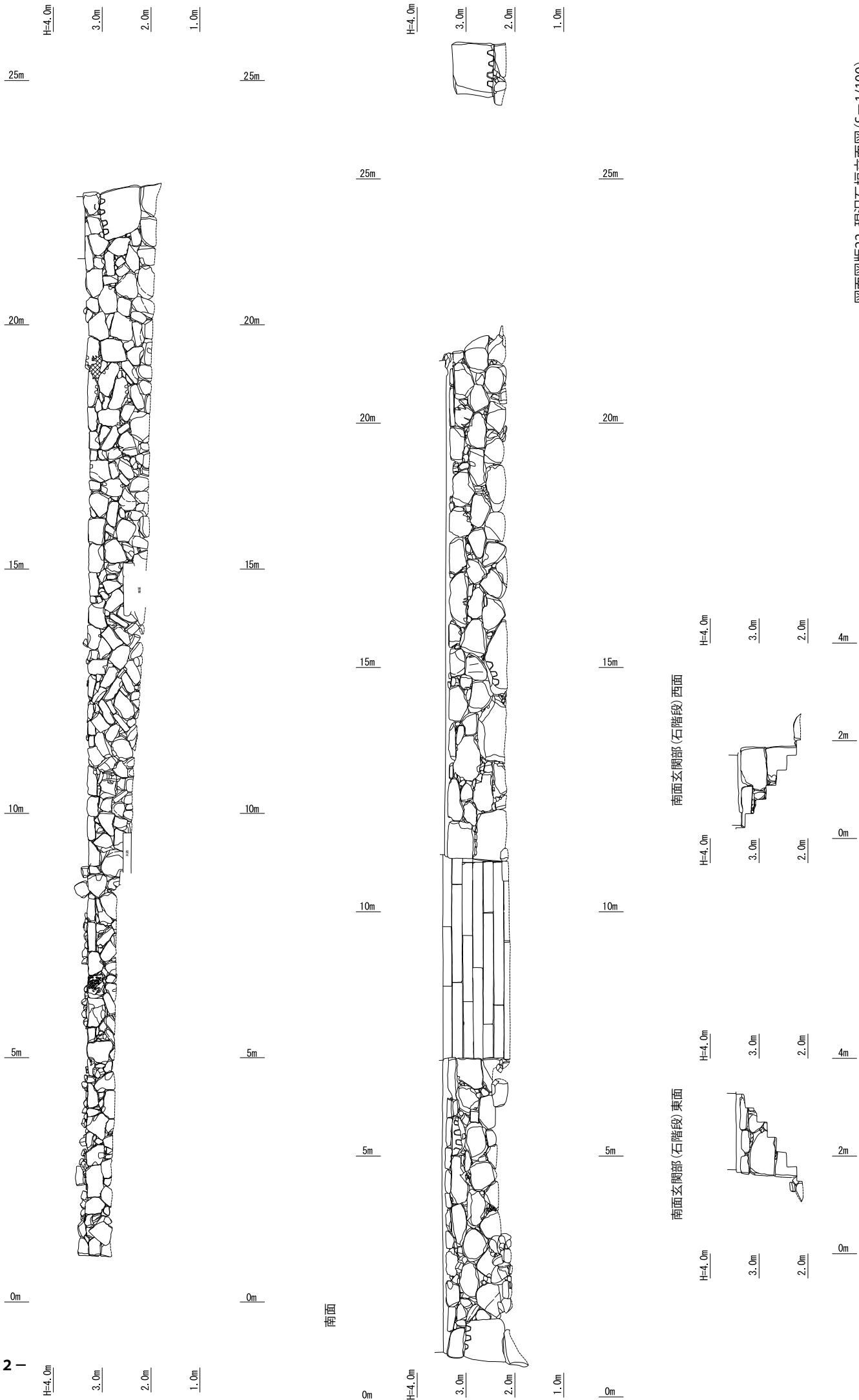
タ ミ 力 ハ ル ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ





図面図版19 現況門・堀平面・立面図 (S=1/150)  
図面図版20 現況門・堀断面図 (S=1/60)





図面図版22 現況石垣立面図 (S=1/100)



**【文化財保護のお問い合わせ先】**

日出町教育委員会社会教育課（文化財係）  
〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2  
TEL 0977-73-3222 / FAX0977-72-8680